

グローバル人材育成プログラム

—広島県支援広島4大学連携プログラム—

安田女子大学現代ビジネス学科教授 山下 明博

YAMASHITA Akihiro

キーワード： グローバル人材、大学連携、海外研修

はじめに

グローバルな人材の育成は、少子高齢化・グローバル化という問題を抱える広島県の経済にとって、喫緊の課題となっています。そして、この課題に正面から取り組み、その解決に努めることが強く大学に求められています。こうした中、広島県の支援のもと、安田女子大学が代表校となり、県立広島大学、広島修道大学、広島市立大学と連携して、平成24年4月、「グローバル人材育成プログラム」を立ち上げました。

本来、広島県人は、グローバルなDNAを有している県民です。海外への移住も多く、企業活動のみでも、マツダやカルビー等の大企業は言うまでもなく、白鳳堂やヒロボ一のようなイノベーティブな地場企業においても、グローバルな企業活動を散見することができます。

しかし、近年、若い人たちの間では、広島から出ようとはせず、ましてや海外勤務はご免だとして避ける傾向がみられます。私たちは、このような問題を解決する有効な方策として、「グローバル人材育成プログラム」を企画し、実施いたしました。その結果、本プログラムに多くの受講生が参加し、最終的に、社会人5名、大学院生2名、大学生30名が本プログラムを修了しました。また、講義に続く海外研修プログラムには、社会人3名、学生7名が参加し、ニューヨークのペース大学で有意義な研修を受けるとともに、米国三井物産やブルームバーグ本社等を訪問いたしました。世界経済の中心地であるニューヨークでの研修は、研修生にたいへん大きな刺激となりました。

そして、平成25年度も、昨年同様、本プログラムを継続して実施しています。今回ご紹介させていただきます「グローバル人材育成プログラム」が、皆様のご参考となれば幸いです。

プログラムの概要

本プログラムは、「グローバル人材育成」に関する15回の講義と、ニューヨークでの海外研修から構成されています。

「グローバル人材育成」に関する15回の講義

1. 講義の目的

この講義は、グローバル化する社会において、ビジネスの場におけるグローバルな

人材とは何かを学び、グローバルビジネスで活躍できる人材を育成することを目的として開講しています。

私たちが受講者に到達してほしいと考えた目標は、以下の4点です。

(1) ビジネス感覚の理解

ビジネスのグローバル化についての感覚を理解し、身に付ける。

(2) 基礎知識の理解

アメリカや中国でビジネスを行う上で必要な基礎知識を理解し、身に付ける。

(3) 主体性・積極性の理解

グローバル化に対応できる人材になろうとする主体性・積極性を理解し、身に付ける。

(4) 語学の重要性の理解

グローバルビジネスに必要な語学力の重要性を理解する。

2. 学生と社会人が共に学ぶ環境

本プログラムでは、学生と社会人が同じ教室で同じ講義を履修します。そして、講義の履修者が学生の場合、その学生が所属する大学の単位として認定され、履修者が社会人の場合、単位または修了証書が与えられるという特徴を持っています。

また、講義の一部は英語で行われるため、履修するためには、TOEIC500点程度の英語力が要求されます。さらに、講義の最後には試験を実施し、合格しなければ単位は与えられません。このため、履修者は、真剣にプログラムに取り組み、講義の水準が維持されることとなります。

履修者に単位を与えるために、以下のような仕組みを導入しています。

まず、代表校である安田女子大学では、共通教育科目「現代のビジネスA（グローバル人材育成）」を開講しており、安田女子大学の学生は、この科目を履修することにより、2単位を修得することができます。そして、この科目は、一般社団法人「教育ネットワーク中国」の単位互換科目として公開されており、中国地域の23大学に所属する学生は、この科目を履修し2単位を修得すると、その単位は、その学生の所属する大学の単位として認定されます。さらに、広島県の社会人も、この科目を履修した場合に、単位あるいは修了証書が与えられる仕組みとなっています。

3. 具体的・実践的な講義内容

講義内容は、具体的かつ実践的となるよう工夫しています。平成24年度の場合、最初に、ビジネスにおけるグローバル化の必然性を理解してもらうとともに、アメリカと中国を例にとり、海外事情、文化・商習慣、マーケティング、法律、人事制度について学びました。そして、貿易の実務について学んだ後、受講者自身が、海外を対象にしたビジネスプランを企画し、受講者の前でプレゼンテーションを行うことによって、グローバルな人材となるための基礎力を養成しました。また、一部の講義は、英語で実施しています。

平成24年度の、「グローバル人材育成」の15回の講義概要を以下に示します。

- 1 イントロダクション（講義の意義、特徴と概要）
- 2 ビジネスのグローバル化の必然性理解
- 3 グローバルビジネスで通用する人材（シンポジウム形式）
- 4 異文化理解（1）アメリカ・中国の海外事情
- 5 異文化理解（2）アメリカの文化・商習慣
- 6 異文化理解（3）中国の文化・商習慣
- 7 マーケティング（1）アメリカ編
- 8 マーケティング（2）中国編
- 9 アメリカ・中国の法律
- 10 アメリカ・中国の人事制度
- 11 貿易実務
- 12 ビジネスモデルの紹介
- 13 ビジネスプランの企画
- 14 プレゼンテーション
- 15 試験、まとめ

4. 多彩な講師陣

本プログラムの目的は、グローバルな人材を育成することにあります。そこで、安田女子大学、県立広島大学、広島修道大学、広島市立大学の教授陣だけではなく、グローバル企業の海外展開責任者、現地のマーケティングやマネジメント・財務・人事を担当する実務者、日本企業の海外進出を支援している企業や組織の方、国際弁護士等、グローバルな人材の育成に実際に携わっ



ていらっしゃる多彩な方々を講師にお招きし、講義をお願いしました。受講者からも、具体的で実践的な講義を聞いて良かったと、非常に好評でした。

以下に、平成24年度の講師陣を示します。

三井物産株式会社中国支社副支社長 鈴木泰彦氏
西川ゴム工業株式会社管理本部人事部長 二本松宏氏
株式会社シンコー 寺尾禎哲氏
株式会社ビズウィンコンサルティング代表取締役 野呂良材氏
株式会社サタケ相談役 保坂幸男氏
カルビー株式会社西日本事業本部本部長 駒田勝氏
国際弁護士 久行康夫氏
日本貿易振興機構（JETRO）広島貿易情報センター所長 酒井拓司氏

「グローバル人材育成」に関するニューヨークでの海外研修

1. ニューヨークでの海外研修の概要

「グローバル人材育成プログラム」の15回の講座を通じて、グローバルな人材になるために必要な様々な知識や技術を学ぶことができた受講生の中から、プログラムの成果を海外で実際に確かめ、定着を図るために、平成25年3月3日から3月10日まで、学生7名、社会人3名の計10名と引率2名で、グローバル人材育成に関するニューヨーク研修を行いました。研修生のテーマは、「アメリカ・ニューヨークで広島のお好み焼きを売る」ためのマーケティング戦略を構築するというものでした。

ニューヨークでは、ニューヨーク・マンハッタンにあるペース大学に1週間滞在し、マーケティング講義、ペース大学在学生のプレゼンテーション大会参加、企業訪問、市場調査、研究交流、広島お好み焼きの実演とプレゼンテーション実施など、とても密度の濃い内容の研修を行いました。

なお、本プログラムのニューヨーク研修につきましては、広島県から、研修生の研修参加費用の半額を補助いただきました。

2. スケジュール

本プログラムのニューヨーク研修のスケジュールは、以下の通りでした。

(1) 3月3日

10名の研修生は、日本時間14時25分に広島空港を出発し、16時間以上かけてニューヨークに到着しました。到着は、ニューヨーク時間16時35分でした。

(2) 3月4日

朝8時、ニューヨークのペース大学の玄関で、顔写真を撮影し、セキュリティカードを作ってもらった後、9時から講義を受けました。

ペース大学ジョン氏の歓迎のあいさつに続き、カーニット教授による、マーケティングの基礎、企業のCM投資戦略、ブランドイメージ戦略といった内容の講義を受けました。

午後から、実際にニューヨークで20年お店を運営されている、ベーカリーショップ「たかはち」を訪問し、ニューヨークのマンハッタンで生き残るノウハウを教えてくださいました。周囲に事務所のある弁護士や市役所の職員などを購買層に定め、良い材料と丁寧な手作りのパンを提供し続けることがポイントであると感じました。

夜18時30分からは、ペース大学でグローバルビジネスプログラムを学ぶアメリカ人や留学生のプレゼンテーション大会に参加しました。プレゼンテーション後の学生からの質問も実に的確で、アメリカの大学の講義の一端を知ることができました。

(3) 3月5日

3グループに分かれ、カーニット教授による、お好み焼きプロジェクトに関する個別指導を受けました。研修生10名は、日本での講義で準備を進め、プレゼンテーションも経験してきましたが、カーニット教授の指摘は、本気でニューヨークでお好み焼きを売るのなら、どのような点を意識すべきか、実に広範かつ具体的なものでした。

また、効果的なパワーポイントでのプレゼンテーション法を学びました。

(4) 3月6日

ニューヨークにある企業の訪問を2社訪問しました。「米国三井物産」と「ブルームバーグ本社」です。「米国三井物産」では、日本の企業がグローバル化するために、何をすべきかについて教えていただきました。研修生は、アメリカ人と共に働く日本人社員に、グローバル企業の社員の実情について詳しく質問していました。

「ブルームバーグ」は、元ニューヨーク市長ブルームバーグ氏が1980年代に創立した、世界の最新のマーケット情報を配信する最先端の企業です。厳しいセキュリティチェックがありましたが、社内の雰囲気はとても自由で、社員がリラックスしながら仕事をするために設置された水槽やプール、好きなものを自由に無料で飲食できるブース、完全ガラス張りのオープンな会議室など、日本でのビジネス環境との大きな違いに驚かされ、とても刺激を受けた企業訪問でした。

その後、ペース大学で、プレゼンテーションのブラッシュアップや発表練習を行いました。

夜20時には、ホテルから、日本とアメリカとのテレビ電話を使った国際会議シミュレーションを行いました。日本の安田女子大学現代ビジネス学部事務室のパソコンと、アメリカのニューヨークのホテル「ホリデイインニューヨーク」のパソコンを接続し、研修の様子についての質疑応答などを行い、国際会議シミュレーションは成功裏に終了しました。

(5) 3月7日

午前中は、カーニット教授による、お好み焼きプロジェクトに関する最終仕上げの指導を受けました。

そして、午後には、オタフクフーズの小澤孝充副社長自ら、ロサンゼルスからニューヨークまでお越し頂き、本格的な「広島お好み焼き」の実演をお願いしました。ペース大学の特設ブースには、カーニット教授の学生や、お好みソースの香りに誘われた教職員など、多くの人が集まり、その場で鉄板の上で作っていただいた、ニューヨーク初お目見えの「広島お好み焼き」を試食しました。このパフォーマンスとお好み焼きの味は大好評でした。

14時、今回の研修の総仕上げとなる、3チームによる最終プレゼンテーションを行いました。教授や学生が居並ぶ中、「広島お好み焼き」をニューヨークで販売するためのビジネスプランに関するプレゼンテーションを、すべて英語で行いました。

プレゼンテーション後には、学生から、かなり高度な質問や、マーケティングに関する積極的な質問が寄せられていました。

(6) 3月8日

この日、ニューヨークは大雪で交通機関が大混乱し、金融街ツアーをキャンセルし、ニューヨークの店舗の価格調査を実施しました。

午後は、地下鉄を乗り継いでユニオンスクエアに移動し、ニューヨーク研修の修了式に参加しました。研修生10名は、アメリカ人3人から修了証をいただきました。そして、研修生代表から、今回の研修についてのお礼を述べました。

午後3時、全ての研修プログラムが終わり、短時間ながら、ニューヨークツアーに

出かけました。メトロポリタンミュージアムと、エンパイヤステートビルを見学しました。

(7) 3月9日、10日

研修生は、ニューヨーク時間 11 時 25 分、ニューヨークのニューアーク空港を出発しました。広島に到着したときは、日本時間で、翌日 10 日 21 時 10 分になっていました。約 18 時間の長旅でした。



むすび

本プログラムは、広島県の援助を受けながら、広島県にある複数の大学が、互いの垣根を越えて協力し、15回の講義とアメリカ研修を実施しました。

特に、安田女子大学、県立広島大学、広島修道大学、広島市立大学という広島の4大学が連携したこと、多彩な方々に講義をお願いしたこと、講義や研修において学生と社会人が共に学ぶ機会を設けたこと、プログラムに参加するために必要な英語のレベルを設定したこと、15回の講義を履修し試験に合格した者には大学での単位を認定するようにしたことなど、従来にない新しい試みが多いプログラムでした。

しかし、グローバルなマインドを持ち、広島県の経済を担い支えていく人材を育成したいという思いは共通であり、企業をはじめとして多くの方々のご協力とご支援を得てはじめて実現できたプログラムでした。

その意味では、プログラムに参加した学生、社会人だけでなく、プログラムを準備し実行した私たちにとっても、得るものの大きいプログラムであったと思います。

私たちは、本プログラムを継続的に実施していくことにより、広島県人が潜在的に有しているグローバルマインドや力を今一度引き出し、広島県経済を担い支える人材を育成したいと考えています。そして、今回ご紹介しました「グローバル人材育成プログラム」は、平成24年度に続き、平成25年度も実施されることになりました。

本年度は、昨年度のプログラムの問題点を修正し、本プログラムをさらに充実させたいと考えています。平成24年9月28日から、また、「グローバル人材育成」に関する講義が始まりました。今後、本プログラムを受講した方々が、広島県の経済を担い支える人材として大きく育ち、活躍されることを願うものです。